

国語の授業改善～今、求められている基本！



★授業前の単元づくり編 (国語の授業は単元づくりで決まる！)



STEP 1. この単元で「つきたい力」を設定する！

◎この単元で扱う「つきたい力」を教材の内容や児童の実態から設定。

(どの指導事項を選び、それは具体的にどんな力なのかを設定する)から確かめ、ゴールの姿から単元・授業をデザイン。指導事項にこだわって学習指導。

◆留意点

複合単元(読む→書く(※2つめの時間が多い時は特に)は、2つめの領域の内容に沿った指導事項からつきたい力を設定するとよい!)例えば、「書く」で読み取ったことをもとに、選んだ絵文字について「はじめ・中・終わり」の構成で紹介する文章を書く活動をゴールの活動にしているのであれば、「読む」で【要旨をまとめる力】ではなく、【文章の構成をつかむ力】をつきたい力に設定するべきである!ということ。

STEP 2. 「つきたい力」が身につく!高まる!ゴールの言語活動を設定する!

- 「つきたい力が身につく」「高まる」言語活動を設定する。
- どのような内容を、どこまで求めるかなど、詳細を設定する。 ※見通しをもたせるため、具体例を準備する。

STEP 3. つきたい力(ゴールの活動)に必要な活動をリストアップする!

◇リストアップ例

- 1 時目は単元を見通す時間～目標、ゴールの活動、そのために取り組んでいく活動 など
- 心情の変化について読み取っていく～○の場面と○の場面に時間をかける。○の場面は読み取る必要なし
- 読み取ったことから自分の考えをまとめる活動(考えの形成)と、交流し考えを広げ深める活動(共有)
- ゴールの活動&それを交流する活動 ●単元の評価と単元のまとめ

※指導事項を達成するための適切な活動を設定する。(どれだけ指導事項にこだわられるか!)

◆留意点

朱書き指導書や指導計画には、扱う指導事項がたくさん記載されている。全てを扱うのではなく、どの指導事項を扱うかを精査する。また、どの指導事項を選んだとしてもそれに沿った活動ができるように多めに広く展開例が示されている。よって、設定した「つきたい力」に沿って、必要な活動も精査や修正、変更が必要!

STEP 4. リストアップした活動を組み立て、単元計画を!(単元デザイン)

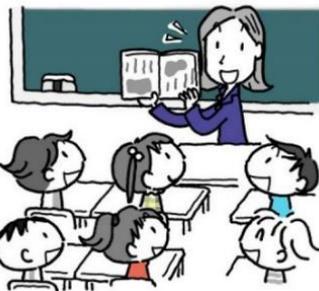
◆単元計画例 ※枝小はここが単元計画表作成となります!

- ① 単元を見通す時間、ゴールの活動と結びつく初発の感想をもつ
- ② 行動や様子、会話文から心情を読み取る～前半の場面
- ③④ 心情の変化について読み取る①～最初に読み取った思いが、女の子のお家の場面でどう変化したのか
- ⑤ 心情の変化について読み取る②～山場の場面で女の子の言葉により、最初の思いはどう変化したのか
- ⑥ 「読む」のまとめ ～「心情の変化を読み取るコツとは?」
- ⑦ 考えの形成① ～おにたはなぜ消えてしまったのか、考えをもつ
- ⑧ 様々な感じ方の違いに気がつく共有
- ⑨ ゴール活動① ～おにたの思いを考えた手紙を書く
- ⑩ ゴール活動② ～交流し、様々な感じ方を知り、思考や表現を高める。
「書く」のまとめ
- ⑪ 単元のまとめ、単元の評価

※そのままの脱却!昨年度の先生が組み立てた計画を見て、クラスの実態と照らし合わせて確認!修正!

読み取ったことを基に考えの形成を図る活動の際には、「どっちだと思う?」「このあとどうなる?」など、読み取ったことを基に様々な考えが出てくる問題やどちらなのか判断の要素がある問題など、工夫しよう!

国語の授業改善～今求められている基本！



★授業編！！

I 学習課題をつかみ、見通しをもつ (開始5分までに課題提示を)

今日の学習課題をつかむ。(課題は青で囲む)

- ① 今日の課題を確かめる。
※単元の最初や扱う領域が変わる時には、言葉に関わる資質・能力としての課題の提示！
「～するには？」など問題解決的な要素の副題をつけると効果的。
- ② 今日の活動が、ゴールの活動(つきたい力)とどのように結びつくかを確かめ、活動の見通しや目的、必要感を高める。※何のために読むのか、書くのか
- ③ どのように活動したらよいか、解決の見通しをもたせる。

ゴールの活動の導入部では、主体的に学習に取り組む態度の目標も伝える！

全員ができていなくてもいい。みんなで考えた時にわかればOK！しっかり時間で区切ろう。

II 個人思考 (時間で区切る)

解決の見通しをもとに個人思考に取り組む。
考えを発表できるように準備をする。

- ① 個人思考に取り組む。(何分必要？と聞くと子どもが自分たち主体の学習の意識を高められる)
(指導事項を達成するための、言葉に目を向けながら考えを創っていく活動を設定)
- ② 友達が見ることを意識して書いたりまとめたりする。

「伸びしろ層」の児童をBに引き上げるための支援を行い、一人一人の理解へつなげる。

III 集団解決～様々な考えにふれ思考や理解を深める (10～15分)

- ・ノートを見合い、友だちがどのように考えたのかについて読み取る。
- ・いいなと思った友達の考えを付け加え、考えを広げる。
- ・考えたことを、筋道を大切に説明する。(ICTの積極的な利用)
- ・友だちの考えについてどう思うか、自分の言葉で言えるよう、考えて聞く。

- ・問い返しや意図的指名により、子どもの思考や理解を深める。
- ・大事なおさえや考えは、復唱の問い返しで、一人一人の理解へつなげる。

※問い返し後や発表後、すぐに教師がまとめようとせず、子ども達の発言がつながり高まっていくように！

IV まとめ (5分)

単元の学習のまとめりに

「今日は何を学んだのかが自覚できる言葉の力としてのまとめを！」(赤で囲む)

※そうでない時は、「言葉のどんな力を使って、何のために、どんな活動をしたのか」、を確かめるまとめを行う。

- ・～に注目すると、●●が読み取れる。 ・しかし、を使うと言いたいことを強められる。
- ・題名には、物語にこめられた作者の思いや願いがこめられていることがある。

V 振り返り

★振り返り(大切に書く意識を高める)

1. 何ができるようになったか OR 何がわかったか
 2. 自分の学習や活動の仕方を見つめて
- ※単元の終わりやゴールの言語活動の振り返りでは、主体的態度(略)の2つの観点で振り返らせ、その学びに向かう人間性を高めることも大切に！&適切に評価！

・効果的な時には、まとめは与えたキーワードを使って自分の言葉で書かせよう。

